

〈生徒指導〉

効果的な勤怠指導の在り方

ーアンケート分析とエゴグラムを活用した個別指導を通してー

沖縄県立北谷高等学校教諭 比 嘉 優 子

I テーマ設定理由

近年、核家族化や情報のグローバル化が急激に進展する中、子供たちを取り巻く環境も変化し続けている。人間関係の希薄さから生じるいじめや携帯裏サイトによる中傷、不登校、命の大切さや他者を思いやる心の欠如、また保護者（大人）からの「児童虐待」といった悲惨なニュースが絶えない。2009年度上半期沖縄県警調べによると、窃盗や粗暴犯また福祉犯等の各種少年犯罪が全国的にも高い水準にあり、これらの問題行動は深夜に発生しやすい。その要因のひとつとして規範意識の低さや夜型社会、家庭の教育力不足が考えられる。

生徒はこの加速する社会の中で直接体験の不足に加え、遊ぶ経験の不足などから自分自身の感情をうまく相手に対して表現できなくなっている。そのため様々なストレスを感じたり、夢や目標を見失い自分の考えに自信を持てなくなっている現状がみられる。

沖縄県は「豊かな心を持ち、夢・実行力のある青少年の健全育成」や「当たり前のことが当たり前でできる」いわゆる「凡事徹底」を推進し、生活リズムの確立や規範意識・マナーの育成など基本的生活習慣の確立を主要施策に掲げている。また、人間形成には「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」が必要不可欠と考える。基本的生活習慣の確立や人間形成を図るために、学校、家庭がそれぞれ、何に力を入れるべきか、また、どのような連携を図っていくかについて、研究する必要があると考えられる。

本校は、素直で人なつっこく元気な生徒が多い。学校行事では生徒会や各学級の正副会長を中心に充実した学校生活を送っている。しかし、男女バスケットボール部やハンドボール部、弓道、野球、サッカー、柔道部に文科系の部活動も含めると30程度の部活動や同好会があるにも関わらず、入部する生徒が少なく、この2、3年間の入部率は3割を超えることがない。また、我慢強さや判断力が身に付いておらず、自分の感情をコントロールすることができず衝動的に行動したり、生徒や教師に悪態をついたり暴言を吐く生徒も少なくない。それに加え基本的生活習慣が確立していないため、遅刻、無届欠席、無届欠課を繰り返す生徒が学校全体の約3割近くおり、問題行動の発生原因との関係もあるのではないかと考える。

私はこの数年、生徒指導部で規範意識が低く問題行動を繰り返す生徒と関わってきた中で、「遅寝遅起き」「不規則な食生活」等の基本的生活習慣の乱れや、自分の将来に対しての「目的意識の低さ」が「勤怠悪化」の要因のひとつではないかと考えている。

本校では、今年度より勤怠状況の悪い生徒（遅刻、無届欠席、無届欠課をどちらでも月に5回以上）を対象とした指導に力を入れることになった。具体的には、対象になった生徒の保護者参加のもと、全体指導を行い、生徒には5日間の日誌指導を行うものである。しかし指導に応じない、改善がまったくみられないといった生徒も少なくない。また保護者との連携がスムーズに行えず、勤怠指導がうまくいっていない現状がある。うまくいかない原因のひとつとして、個別の背景や要因を理解しないままの画一的な一斉指導が行われているためだと考える。

そこで、生徒一人一人の勤怠悪化の背景・要因をアンケート等から分析し、個々の要因に沿った個別の支援を実施すれば、効果的な勤怠指導の実践ができるのではないかと考え本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

繰り返し勤怠指導を受ける生徒の要因、背景をアンケート等から分析し、個別の支援を実施することで、従来の勤怠指導がより効果的なものになり、生徒の勤怠状況が改善するだろう。

II 研究内容

1 生徒指導について

現在本校を含め、ほとんどの高等学校において、校則違反の生徒に対し懲戒内規に従った画一的な指導が行われている現状がある。本来、生徒指導とは生徒の自己成長を促し、最終的には自律した生

徒を育てることだと考える。また、生徒においては個々の要因や背景が異なるので、それを理解して生徒指導に取り組むことが、効果的な指導に繋がるのではないかと考える。

(1) 生徒指導と人間形成

「生徒指導提要」(文部科学省 平成22年3月改定)の第1章第1節1において「生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことである。すなわち、生徒指導は、すべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指している。生徒指導は学校の教育目標を達成するうえで重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つものと言えます。」とあり、生徒指導は生徒の人格形成をねらうものであり、最終目標としては良好な意思決定、行動選択を目指すものである。意思決定、行動選択は個々の生活や周囲の社会環境によって形成されているので改善していくことは容易ではないが生徒自身が明確な目標を立て、それを支援していくことができればより効果的な生徒指導ができるのではないかと考える。

(2) 集団指導・個別指導の方法

学校における生徒指導は画一的指導になりやすい。問題行動の要因によっては集団的かつ一斉指導を取り入れる必要があるが、生徒一人一人の実態を把握し、個々の背景や要因を指導に結びつけ、個別指導を取り入れると効果的に支援ができるであろうと考える。集団指導と個別指導はどちらか一方に偏ることなく、その両方の場面で「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」がバランスよく行われることで、それぞれが相互作用し、生徒の力を最大限に伸ばせると考えられる。集団指導と個別指導の原理を示したのが図1である。

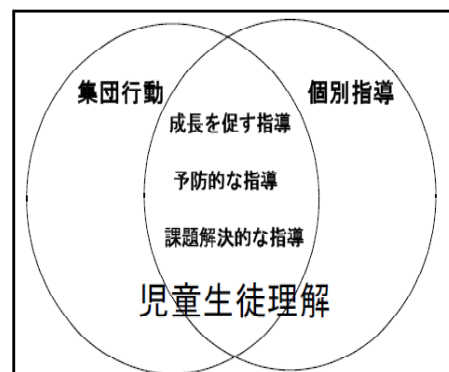


図1 集団指導・個別指導の原理

2 エゴグラムについて

エゴグラムは、アメリカの心理学者エリック・バーン博士が創始した「交流分析」という人間関係の心理学理論に基づき、弟子のジョン・デュセイ(1935)によって考案され、日本人に合うように修正された自己分析法である。「エゴ」は自我、「グラム」は図を意味し、心の指紋ともいわれている。日頃、自分はどんな態度をとっているか、またそれはどのような自我が働いているのか、自我をどのようにコントロールすればうまくいくのかを気づくことができる。人間の性格は、親から受け継いだものや育った環境、その人の年齢、経験などさまざまな要素で作られる。このような複雑な性格は、CP=厳しい心・正義感が強く理想に燃える心、NP=愛性の心・優しく保護する心、A=大人の心・冷静に分析する理知的な心、FC=自由な心・天真爛漫で無邪気な心、AC=順応する心・イイ子を演じようとする心の5つの自我状態に分けることができる。エゴグラムにより「自分」を再確認、再発見し自分自身にポジティブな関心を持ち、自分の存在を認める学習は、自己啓発の一助となり、人間としての成長を促進し、これからの生き方のエネルギーになると考えられる。エゴグラムのねらいは、まずありのままの自分の姿に気づき、自分の対応の仕方を変えてみることをねらいとしている。

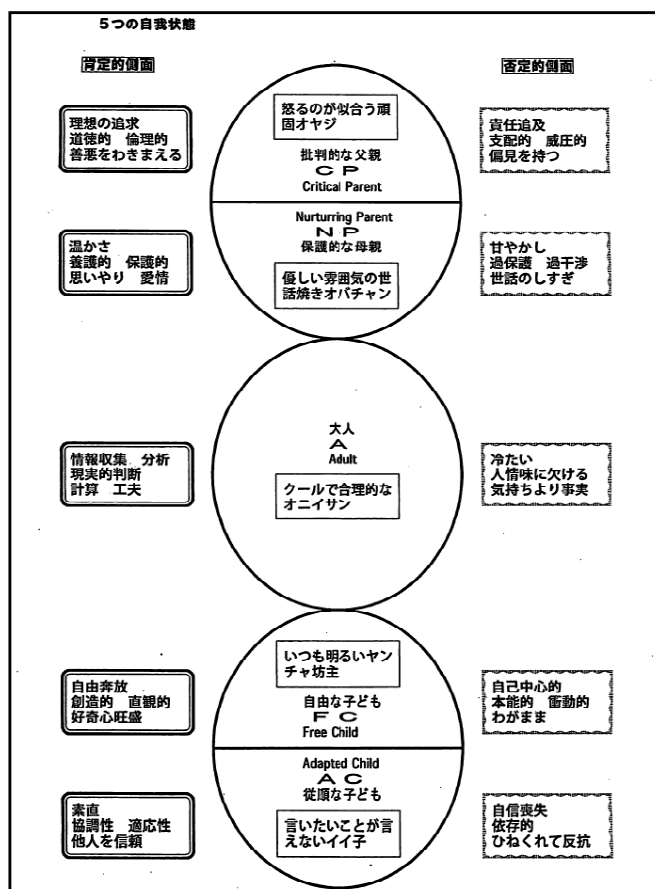


図2 5つの自我状態

3 自己肯定感について

「自分はかけがえのない大事な存在だ」「価値ある人間である」と思える気持ちのことを自己肯定感（セルフエスティーム）または自尊感情ともいう。人間は自分という存在を否定するのではなく、欠点や短所も含め、ありのままの自分を肯定的に認め、自分らしさを好きになり、身近な人間関係の中で自分を価値あるものとして思えるようになることが大切である。自己肯定感の高い人間は相手の長所を見つけやすく、組織の中において協力的で順応しやすいといわれる。本校の生徒は、「自分に自信がない」や「どうせおれがやっても・・・」と発言する生徒が多く、「自己肯定感」が育っていないように感じられることがある。学校生活で自己肯定感を高める方法として、開発的教育相談の実施や頑張ったプロセスを大切にしようとするようなプラスの言葉かけをしていくことが大切である。

Ⅲ 指導の実際

1 アンケート分析

このアンケートは効果的な勤怠指導の取り組み方を探る為に全校生徒（880名）に「学習への適応」「アルバイト」「遊び」「夢や目標」「学校不適応」「生活習慣」「家庭環境」の7つの観点から32の質問を実施した。また『心理測定尺度集』から「社会的責任尺度」「学芸大式学習意欲調査」を用いたアンケートを行った。その結果を勤怠指導を受けている生徒と勤怠指導を受けたことのない生徒に分けて違いを分析した。

(1) 生徒の実態調査アンケートの分析調査結果及び考察

対象：C 高校全校生徒（880 名中有効回答数 695 名）

実施時期：平成 22 年 11 月 11 日～ 19 日

表 1 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q 1 あなたは学校が楽しいですか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
は い	139 (66 %)	38 (66 %)	111 (79 %)	34 (54 %)	95 (59 %)	46 (73 %)
いいえ	32 (15 %)	20 (34 %)	29 (21 %)	29 (46 %)	10 (6 %)	17 (27 %)
楽しい時もある	39 (19 %)	0	0	0	56 (35 %)	0
対象人数	210	58	140	63	161	63

Q 1 「あなたは学校が楽しいですか？」の質問に対して各学年大半の生徒が「はい」と答えており「楽しい時もある」との回答と合わせると 54 % から 94 % が学校生活を充実感を持ちながら過ごしていることがうかがえる。反面、勤怠指導を受けたことのある生徒（以下、被指導群とする）に関しては学年に多少の違いはあるものの、勤怠指導を受けたことのない生徒（以下、無指導群とする）の割合の約 2 倍弱から 5 倍が「いいえ」と答えている。このことから、勤怠指導を受けている生徒は、学校への居場所がない状況が考えられ、学校の全教育活動の中で居場所づくりをしていく必要があると考えられる。

表 2 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q 2 あなたが学校生活で楽しいことは何ですか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
授業以外で友人と過ごす時間	183	49	127	63	143	56
行事の時	49	9	57	11	51	7
授業（好きな教科）	30	2	40	6	32	6
その他	28	3	17	5	8	4
対象人数	210	58	140	63	161	63

Q 2 では「あなたが学校生活で特に楽しいことは何ですか？」の質問に対し、4 つの選択肢を設け複数回答を可能とし答えてもらった。両群ともに「授業以外で友人と過ごす時間」が学校生活で、特に楽しいと答えている。また、「その他」の回答で部活動に加入している生徒のほとんどが学校生活での楽しみを「部活動」と答えている。このことから、構成的グループエンカウ

ターなどで人間関係づくりの授業を取り入れる工夫をしたり，部活動加入を呼びかけることで学級や学校への帰属意識を更に高めていく必要がある。

表3 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q 3 あなたはアルバイトをしていますか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
は い	34 (16 %)	12 (21 %)	40 (29 %)	35 (56 %)	47 (29 %)	57 (90 %)
いいえ	176 (84 %)	46 (79 %)	100 (71 %)	28 (44 %)	114 (71 %)	6 (10 %)
対象人数	210	58	140	63	161	63

表4 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q 4 アルバイトをされていてどのような変化がありましたか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
生活のリズムが狂った	1 (3 %)	3 (25 %)	3 (8 %)	14 (40 %)	2 (4 %)	9 (16 %)
行事の時	10 (29 %)	6 (50 %)	18 (45 %)	5 (14 %)	18 (38 %)	16 (28 %)
授業 (好きな教科)	1 (3 %)	1 (8 %)	1 (2 %)	2 (6 %)	1 (3 %)	7 (12 %)
授業に影響がでた	22 (65 %)	2 (17 %)	18 (45 %)	14 (40 %)	26 (55 %)	25 (44 %)
対象人数	34	12	40	35	47	57

Q 3，Q 4では「あなたはアルバイトをしていますか？」の質問と同時に「アルバイトをしている」と回答した生徒に対し「アルバイトをされていてどのような変化がありましたか？」という質問に4つの選択肢を設け回答してもらった。全体では「ほぼ毎日している」，「週に2日以上している」と合わせ，34 %の生徒がアルバイトをしており，被指導群においては全体の約57 %の生徒が学校帰りもしくは帰宅してすぐにアルバイトに出かけるという生活を送っている。「その他」には，「寝る時間が遅くなった」や「勉強ができなくなった」という回答もあった。両群ともにアルバイトが学校生活に影響を及ぼしているという結果が得られた。また，「本県の高校中途退学の実態と分析」(平成17年3月沖縄県立総合教育センター)によるとアルバイトが学校生活の乱れ，中途退学の大きな要因となっていることが明らかになっている。「アルバイトで疲れ，授業に集中できなかった」「アルバイトが遅くなり遅刻が増えた」「アルバイトが忙しく学校を休みがちになった」「アルバイトがおもしろくなり，学校をやめたくなった」を合わせると79.6 %の中途退学者がアルバイトが学校生活に与えた影響を認めている。本校生徒もアルバイトが勤怠悪化の要因の一つになっていると考えられ，保護者やアルバイト先へ10時(未成年の深夜徘徊補導時間)までには帰宅させるよう協力をお願いする必要があると考えられる。

表5 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q 5 朝，晩の食事の時間は決まっていますか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
は い	95 (45 %)	29 (50 %)	96 (69 %)	32 (50 %)	99 (61 %)	36 (57 %)
いいえ	94 (45 %)	9 (16 %)	44 (31 %)	29 (46 %)	50 (31 %)	27 (43 %)
その他	21 (10 %)	20 (34 %)	0	2 (4 %)	12 (8 %)	0
対象人数	210	58	140	63	161	63

表6 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q 6 起床時間は決まっていますか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
は い	169 (80 %)	20 (34 %)	39 (28 %)	22 (35 %)	117 (73 %)	12 (19 %)
いいえ	33 (16 %)	30 (52 %)	84 (60 %)	37 (59 %)	18 (11 %)	49 (78 %)
その他	8 (4 %)	8 (14 %)	17 (12 %)	4 (6 %)	26 (16 %)	2 (3 %)
対象人数	210	58	140	63	161	63

Q 5，Q 6では基本的な生活習慣を身につける場所は家庭での影響が大きいと考え，「朝，晩の食事時間」や「起床時間」等日頃の生活習慣について質問してみた。本校生徒の「朝，晩の食

事時間」に関しては両群ともにほとんど食事時間は決まっておらず、「その他」と回答している生徒の中には「日によって変わる」と答えた生徒のほかに「日に1回しか食事はしない」と回答している生徒もいた。

また、Q6の「起床時間」については、無指導群と被指導群との間に違いがみられ、特に1、3学年においては無指導群の約70%から80%が朝の起床時間が決まっているが、被指導群においては起床時間が決まっている生徒が19%から34%程度となっている。また3学年の被指導群においては、78%の生徒が起床時間が定まっていないと回答している。「子どもの早起きを進める会」の神山潤（2011年1月）によると、「夜型の子ども達は問題行動が高まる可能性があり、注意力、成績が悪く、イライラしやすい。また夜更かし、寝坊で学力の低下、反社会的行動、規則違反、攻撃性がみられると各国からの調査報告がある。」と述べている。逆に基本的な生活習慣が確立されている子ども達は、「学力や規範意識、協調性や良好な人間関係を築くことができる。」とも述べており、「早寝早起き」や「基本的な生活習慣」の定着ができていない本校の生徒への支援として、保護者と連携を取りながら規則的な生活習慣への定着を図る必要があると考える。

表7 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q7 あなたは将来の夢や目標はありますか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
は い	141 (67 %)	32 (55 %)	103 (74 %)	33 (52 %)	120 (75 %)	27 (43 %)
いいえ	69 (33 %)	26 (45 %)	37 (26 %)	30 (48 %)	41 (25 %)	36 (57 %)
対象人数	210	58	140	63	161	63

Q7「あなたは将来の夢や目標はありますか？」の質問に対し全校生徒の66%が「はい」と答え、34%の生徒が夢や目標がないと答えている。被指導群に関しては50%の生徒が夢や目標がなく、ただ何となく高校生活を送っていると考えられる。今後は小中学校と連携し、将来に夢を持てるようなキャリア教育の充実を図る必要があると考えられる。

表8 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q8 深夜徘徊で補導されたことがありますか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
は い	5 (2 %)	10 (17 %)	30 (21 %)	22 (35 %)	10 (6 %)	20 (32 %)
いいえ	205 (98 %)	48 (83 %)	110 (79 %)	41 (65 %)	151 (94 %)	43 (68 %)
対象人数	210	58	140	63	161	63

Q8「あなたは深夜徘徊で補導されたことがありますか？」の質問に対し被指導群は、学年により違いはあるものの無指導群の割合の2倍弱から9倍弱が深夜徘徊で補導されている。テーマ設定理由にも記したが沖縄県は少年犯罪が、全国的にも高い水準にあり、これらの問題行動は、深夜に発生しやすく規範意識の低さもその要因のひとつとして指摘されている。今後は、沖縄県警や外部機関と連携し「深夜徘徊予防教育」の充実を図る必要がある。

表9 「効果的な勤怠指導の取り組み方を探る」アンケート表

Q9 あなたは家で家庭学習をしますか？						
学 年	1 学年		2 学年		3 学年	
回 答	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
は い	30 (14 %)	3 (5 %)	21 (15 %)	3 (5 %)	20 (12 %)	10 (16 %)
いいえ	175 (83 %)	53 (91 %)	114 (81 %)	58 (92 %)	124 (77 %)	49 (78 %)
ときどき	5 (3 %)	2 (4 %)	5 (4 %)	2 (3 %)	17 (11 %)	4 (6 %)
対象人数	210	58	140	63	161	63

Q9「あなたは家庭学習をしますか？」の質問に対して全校生徒の約83%が「いいえ」と答えている。特に1、2学年の被指導群に関しては、約90%と非常に高い。3学年の数値的には若干減少している。これは、単位不足による追試や卒業を目前にし意識して取り組もうとしているのではないかと考えられる。Q7のアンケートにおいて全校生徒の約66%の生徒が「将来の夢や目標がある」と回答しているが、実際に夢や目標に向かう積極的な姿勢は見られない。

また、「勉強が分からないから家庭学習ができないし、やっても意味ない」という生徒の声がある。このことから、習熟に応じた授業展開や夏休みや放課後を利用した補習講座などを行い、分かる喜びを体感し、意欲を持って家庭学習に取り組めるようにしていく必要がある。

(2) 社会的責任目標尺度による分析結果

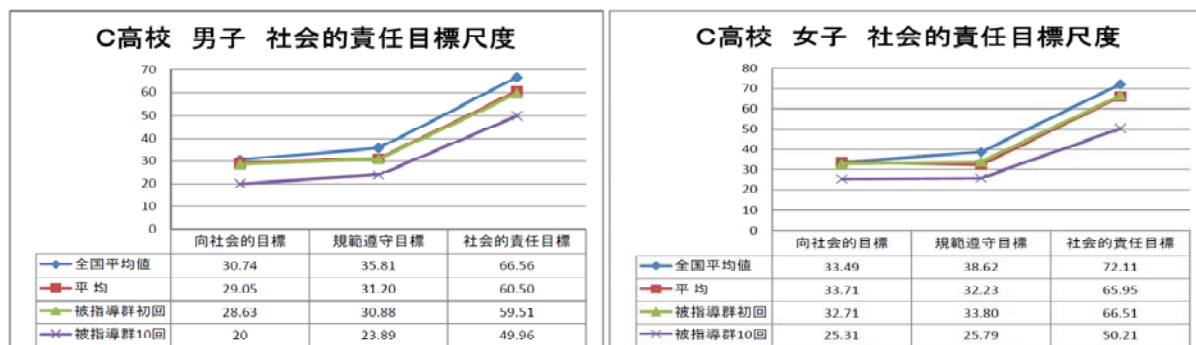


図3 C高校における社会的責任目標尺度結果

図3は、規範意識に関して心理測定尺度の中から「社会的責任目標尺度」を調査した。「向社会的目標」は社会的、対人的な協力や援助をしようとする目標で、「規範遵守目標」は教室における暗黙のルールを守り、規範に従おうとする目標であり、「社会的責任目標態度」は、社会的なルールや役割への期待を守ることが目標と示している。結果は、全体的に全国と比較すると低いことがわかる。特に繰り返し勤怠指導を受けている男子の「被指導群 10 回」に関しては、「向社会的目標」の全国平均が 30.74 のポイントに対し 20 ポイントと非常に低く、「規範遵守目標」や「社会的責任目標態度」に関してもそれぞれ 10 ポイントから 16 ポイントも差がみられる。女子においても「被指導群 10 回」に関しては、それぞれの項目 8 ポイントから 22 ポイントの差がみられる。これらの規範意識の低さが「これぐらいなら・・・」という甘い考え方につながり授業時数不足や、停学指導からの中途退学に至る要因としても考えられる。しかし「被指導群初回」に関しては、男女共に無指導群とほぼ同じ数値がみられ、勤怠指導を受けてからは日常の生活をより意識的に行動していることがうかがえる。

(3) 学芸大式学習意欲検査（簡易版）による分析結果

表10 C高校における学芸大式学習意欲検査（簡易版）結果表

測定項目	全国平均	1 年生		2 年生		3 年生	
		無指導群	被指導群	無指導群	被指導群	無指導群	被指導群
総合得点	99.51	97.02	84.22	96.93	77.88	93.31	75.32
抑制傾向得点	36.92	38.18	35.03	39.72	28.03	37.29	26.66
促進傾向得点	61.43	58.84	49.19	57.21	49.85	56.02	48.66

学習意欲に関しては、学習意欲の諸側面を測定できる「学芸大式学習意欲検査（簡易版）」で調査した。この調査は、①「自主的学習態度」②「達成思考」③「責任感」④「従順性」⑤「自己評価」⑥「失敗回避」⑦「反持続性」⑧「反学習価値観」の 8 つの側面が測定でき、①から⑤の 5 つの項目は学習への積極的な取り組みを促進する「促進効果」を測定し、⑥から⑧の項目は学習活動への積極的な取り組みを抑制する「抑制効果」を測定している。特に「促進効果」に関しては、無指導群、被指導群共に全国平均を下回っており、3 学年の被指導群においては、12.77 ポイントの差がある。このことからみても本校での生徒の多くは、学習意欲が低く被指導群に関しては更に低い傾向がみられ、夢や目標へ向かう姿勢が弱いと考えられる。夢や希望を持ち、その目標に向かって行動する姿勢を育てる必要があると考えられる。

2 検証授業①

(1) 検証授業指導案

- ① 主 題 名 夢を育てる授業（エゴグラムを通して）
- ② 本時のねらい 夢を実現させるために、自己の長所を伸ばし、意欲を高める。
- ③ 目 標 行 動
 - 自信を持って自己実現しようとする態度を育てる。
 - 自分の不得意な点に気づき克服しようとする態度に育てる。
- ④ 授 業 仮 説 エゴグラムを実施することによって、自分の良いところや弱い心の部分に気づき「自己肯定感」を高め、自信を持ち行動する態度が育つであろう。

- ⑤ 資 料 ワークシート，エゴグラムのテスト用紙，グラフ用紙，質問用紙
- ⑥ 評価の観点 ○ 自分について振り返ることができたか。
○ 将来の生き方について自分の考えを持つことができたか。
- ⑦ 対 象 勤怠指導を受ける生徒 11月5名 12月16名 1月18名 合計39名
- ⑧ 指導の展開

	教師の活動	生徒の活動	留意点・評価
導入 10分	・将来の夢もしくはなりたい人物像をイメージさせる。 ・五感を使って具体的にイメージさせる。	・自分自身をしっかりとみつめる。 ・具体的にイメージする。	・勤怠指導を繰り返し受ける と中途退学の要因になることを理解させる。 ・集中力を持続させる工夫として外からの刺激が少ない教室で行った。
展開 55分	・<u>あなたの「夢」を実現させるためにはどんな能力や資質が大切ですか？</u>の質問で必要な能力や資質について考えさせワークシートに記入させる。 ・エゴグラムのテスト用紙を配る。 ・<u>これから50問の質問をします素早く、素直に答えてください。</u>と簡単にエゴグラム実施方法の説明をしテストを開始する。 ・質問に○×△で答える。 ・質問終了後休憩を入れる。 授業を再開し<u>○を2点△1点×0点として項目ごとに合計点数を出してください。</u>と伝え、それぞれの項目の合計点数を出させる。 ・点数を出しグラフに表す。 <u>C Pが高い人</u>と発問し挙手させる。 ・<u>あなた達がしたのはエゴグラムという性格テストの1つです。C Pは責任感・正義感などを表します。C Pの高い人に向いている職業は何ですか？ワークシートに記入してください。</u>と発問しエゴグラムの説明をしながら、はじめは高い項目について説明する。自分の良いところに気づけるようにする。 ・自分の弱点（低い項目）についても考えさせる。	 ・自分が生まれてこれまでに、なりたいと思った職業や夢をできるだけ全部思い出して書く。 ・合計にミスがないか確認しグラフに書き写す。 ・グラフを見て自分は何が高いのか、低いのか判断する。 ・自分の良いところを認識、再確認し「肯定感を高める」 ・自分の弱い部分についてこれまでを振り返りながら全て書く。 	・ワークシート ・5分程度で書かせるようにする。 ・質問を読み上げていくが難しい質問は解説を加える。 ・集中力持続の為に途中で10分程度の休憩をとる。 ・一人一人の性格分析を良い結果として受け止められるよう進め方に工夫をする。（拍手をする） ・<u>C P 責任感・正義感</u> ・NP 思いやり・寛容 ・A 理性・冷静さ ・F C 明るさ・想像力 ・A C 我慢・従順 ・何名かを指名して発表させ、その理由も言わせるようにする。 

まとめ 5分	- どのような努力をすればよいのか？ - この時間の感想を記入	今後自分がどんなふうに努力すればよいのか詳しく思いつくだけ全て書く。
	自己評価	自己評価を書く。
		自己評価表

⑨ 女子Sさんの場合

2年生女子のS子さんは勤怠指導による出席停止の理由は、ほぼ「朝の遅刻」によるものが多かった。エゴグラムを実施する際「夢」について書いてもらったが、彼女の夢がたくさんあることに驚かされた。「韓国語」や「中国語」を独学で学んでいたりと具体的な行動もとっていた。また、彼女は遠方から通学しているとのことでバスの乗り換え等がスムーズに行えない場合があり、「遅刻」になるケースが

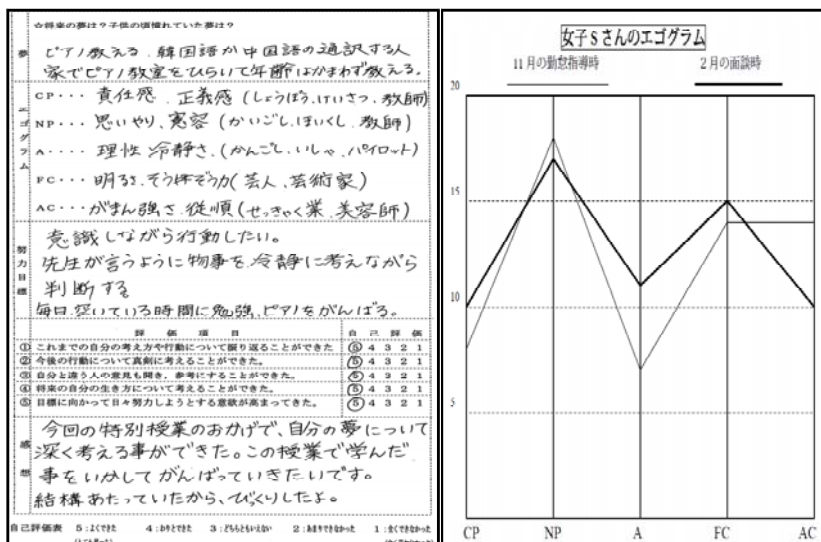


図4 女子Sさんのエゴグラムとワークシート

多かったようなので、母親に連絡を取り協力をお願いした。エゴグラムについては11月に実施した時にはAの部分が高く、表11の『エゴグラム診断結果』簡単アドバイス表』にも書かれているように「理論的な考え方を心がけ、物事を冷静に考えながら判断するよう意識してみたら」とアドバイスすると「意識しながら行動したい。」と感想で書いているように、自分自身で弱点を克服しようとする努力を決意していた。彼女はこの3ヶ月間勤怠指導を受けることなく楽しい高校生活を送っている。

⑩ 男子A君の場合

「エゴグラム」を実施した時には半分ふざけながらも「はじめて自分のことを考えたり、見つめ直したりできた。」と感想で述べていた。彼は極端にACが低く「自分の感情を抑えて周囲の人をほめてあげたり、相手に合わせたりしてみた？」とアドバイスした。日頃から反抗的な態度ではあるが話を聞く姿勢は持っているもので、素直に受け入れられたようだ。週に一度の振り返り面談時に「目標設定シート」で設定し「チャレンジノート」で、チャレンジしていることを再確認すると、意識的に行動する姿勢が育ってきた。3ヶ月後の2月に再度「エゴグラム」を実施したところ、わずかではあるが変化がみられた。当初実施したときに「ACを意識しないといけない」と本人が言っていたので変化が現れたことに喜んでいた。彼はこの3ヶ月間「勤怠指導」とは無縁で、現在は卒業を目標に追試の勉強を頑張っている。

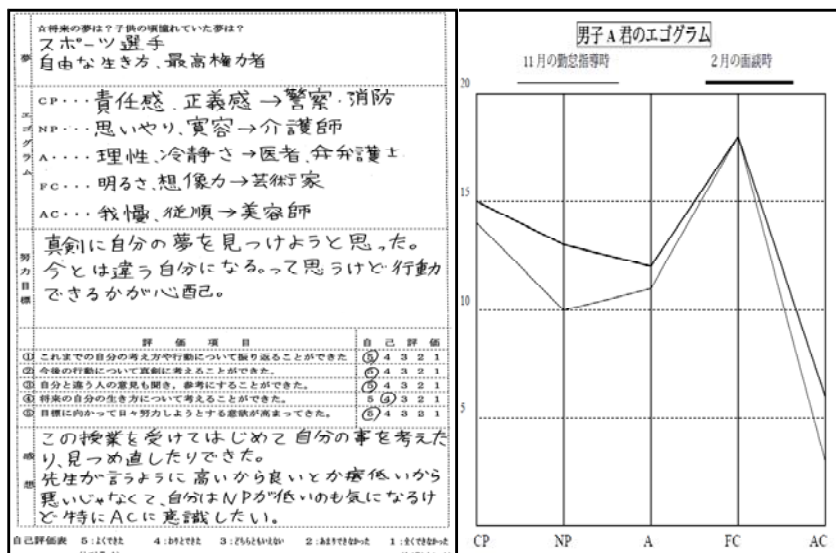


図5 男子A君のエゴグラムとワークシート

意識的に行動する姿勢が育ってきた。3ヶ月後の2月に再度「エゴグラム」を実施したところ、わずかではあるが変化がみられた。当初実施したときに「ACを意識しないといけない」と本人が言っていたので変化が現れたことに喜んでいた。彼はこの3ヶ月間「勤怠指導」とは無縁で、現在は卒業を目標に追試の勉強を頑張っている。

表 11 「エゴグラム診断結果」簡単アドバイス表

(2) 検証授業①のまとめ

このようにエゴグラムを活用して彼らに将来の夢を持たせ、自己肯定感を高めることができた。エゴグラムの実践を通して生徒は、自分の良いところに気づき、自信を持ち行動する態度が育ってきた。はじめは真剣でなかった生徒たちも自分自身ときちんと向き合い、自分の弱い心の部分について考えることを通して「結構当たっていたのでびっくりした。そして自分の『夢』を思い出せた。」や「今までこんなふうに自分と向き合う機

エゴグラム診断結果の生徒へ簡単なアドバイス					
側面	CP	NP	A	FC	AC
	批判的な父親 責任感・正義感	保護的な母親 思いやり・寛容	大人 理性・冷静さ	自由な子ども 明るさ・想像力	従順な子ども 我慢強さ・従順
高得点の場合	相手の立場を認める気持ちの余裕を持って、思い切って相手に任せてみよう。	自分と人との関わりを一步離れて考えるようにしましすぎないよう心がけよう。	自分の結論だけで行動してしまいがちなので、周囲との協調やチームワークを心がけよう。	気分にもうがあるので、後先を考え冷静さを心がけ、一呼吸おいて行動しよう。	あれこれ心配しすぎて考えすぎず、思い切って行動することで自信をつけよう。
低得点の場合	自分の立場や役割を考える時間を持ち、自分の意見をはっきり主張するようにしよう。	日頃から友人などを大切に、相手への思いやりを持つように心がけよう。	物事を筋道立てて考え、(理論的) うまいかわなくてもイライラせずできることを確実にこなそう。	気持ちを押さえ込まないように、気分を表現してみよう。意識して明るく振る舞ってみよう。	時には自分を抑えて、周囲の人をほめたり、相手に合わせるなど気持ちの余裕を持つようにしよう。

会とかなかったから今日はとても良かった。」という感想があった。実施にあたって特に気をつけたのは、エゴグラムの中で低い部分を高めるように指導するのではなく、今の自分を認めながらほめてあげ、肯定的な言葉かけをすることであった。そうすることにより、生徒達も徐々に変化がみられるようになった。生徒の感想にも「エゴグラムの授業で自分には『C P 責任感や正義感と A 理性・冷静さ』が少し弱点だとわかった。でも先生に『NP と FC が高いから思いやりがあって、性格が明るいって友人がたくさんいるんじゃない?』といわれた時はうれしかった。」とあり、言葉かけの大切さを再認識した。課題として、自分のよさには気づきはじめたが、目標を立てられずに実際に行動に移せない状況があったので、次に目標設定シートの実践を行った。

3 検証授業②

(1) 検証授業

- ① 主 題 名 「目標設定シートの実践」 ～弱い自分に流されず、しっかりと自分をもって実践する。～ (チャレンジノートの活用を通して)
- ② 本時のねらい 「目標」を立て、よりよく学校生活を送ろうとする意識を高める。
- ③ 目 標 行 動 目標を立てて努力していく意欲を持つことの大切さを理解する。
- ④ 授 業 仮 説 頑張れば達成できそうな「目標」を立てることによって、よりよく学校生活を送ろうとする態度が育つであろう。
- ⑤ 資 料 ワークシート・目標設定シートの実践、チャレンジノート
- ⑥ 評価の観点 自分の考えを持ち、目標を持って学校生活を送ろうと考えることができたか。

(2) 目標設定シート・チャレンジノートについて

勤怠指導を受けている生徒は、懲戒指導を義務的にこなしているのがほとんどであり、自分で目標を立てて取り組む態度や意識が低い状況がある。そこで生徒も主体的に関われるよう、生徒指導部や担任と一緒に、より具体的で少し頑張れば達成できそうな目標を目標設定シート(図6)に掲げ、個人の「チャレンジノート」(図7)を作成させた。「ほぼ目標が達成できた」場合には◎、「まあまあできた」場合には○、「次頑張る」には△をカレンダーに付け、一週間毎の振り返りを生徒指導部、もしくは担任と行った。「振り返るこ

目標設定シート(目標設定のための質問)	ここから
Q1. あなたがこれから1週間頑張りたいことは何ですか? (目標設定)	Q6. 目標設定を達成するために「まずすべきこと」は何ですか?
1. 始業のベル(朝・授業前)がなる2分前には教室に入る。校門くぐるも:45 ☆朝のチコクをしないために、家を出る時間は? (8 時 30 分) ☆始業の(朝・授業前)ベルが鳴る(2 分前)に教室に移動する。 2. 欠席、欠課をする場合は必ず正副担任に連絡する。 ☆無任はどこにいる? (学年室 〇〇先生) 副担任は? (体育館室 〇〇先生) ☆連絡がどうしても取れない場合は指導部に相談する。(〇〇先生)	早寝・早起き(夜遊びをしない) 22:00までに11時。 23:00に寝る。気持ちをきりかえる。
Q2. その目標設定を達成するためにあなたが克服したいこと(何)は何ですか?	Q7. 具体的に「まずすべきこと」を100%達成するために何ができますか?
朝の早起き(7:45)までに起きる。朝のご飯に時間をかけずに準備をササッとしない。	夜は早くベッドに入って7-9時を23:00以降とあやさない。
Q3. その目標を達成したい気持ち(何)の程度ありますか? 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	Q8「目標設定」が達成できました。今のあなたと何が変わりましたか?
Q4. その目標は達成できそうですか? 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 ※自分の気持ちを数字で表すと? 10(絶対達成できる)から → 1(どうでもよい)	昨日充実して自信がつくかも。 生活習慣がよくなり楽しくなりそう。
Q9. 目標設定に向かって行動することは自分や周囲にどのような影響を与えますか?	Q9. 「まずすべきこと」をいつから始めますか? (1月14日 金曜日 21時)
Q10. 目標設定に向けて行動することは自分や周囲にどのような影響を与えますか?	Q10. バンザヘー!! 目標達成自分へのご褒美は何にする?
生3のりであらびが良くなる。(8時 8分が10分) 来日もチコクしないようになり、親がよさそう。(信用される)	フック行く!(友だちとアルバイト代で) 母さんと約束して好きな物を買ってもらう。

図6 目標設定シート

と」で自分の行動について考え、「書く」ことで目標を意識して行動できるようになり、自己理解や教師とのコミュニケーションが深まり、学校に対する帰属意識が育つと考えられる。さらに勤怠指導を受ける生徒との面談をこまめに行うことにより、担任と生徒、生徒指導部と生徒との信頼関係を深めることができる。努力のあとが形として現れそのことが励みとなり、彼らの「小さな成功体験」につなげることができたと考えられる。成功体験は自分自身に自信を持つことができ、規範意識や学習意欲を育み、人間関係等も良好になると考えられる。

(3) 検証授業②のまとめ

勤怠指導でエゴグラムを受け、自分のよさには気づくことができたが、それを伸ばすために、実際に行動に移すことができなかった生徒に対しては、より具体的な目標を立てさせ（図6）少し頑張れば達成できる目標を個人の「チャレンジノート」（図7）に記入し取り組ませた。一週間毎に振り返りを生徒指導部、もしくは担任と行うことで自分の行動について振り返るようになり、生徒の感想にも「ただ目標設定して、チャレンジするだけじゃなかったからやりやすかった。」「週ごとの振り返りをするので気が抜けない。」「チャレンジノートがあるから遅刻の回数などが確認できて良かった。思っていたよりも遅刻とか欠課をしていることが把握できてぎりぎり2月の勤怠指導にならなかった」「気がゆるみそうだったけど面談をすることで『目標』を思い出して頑張れた。」などの感想があった。

図7 チャレンジノート

また、進路を実現させるための「目標」を明確にするために、進路指導部のジョブサポーターを活用した。専門的な視点から県内外の就職状況や、現状の厳しさなどを教えてもらうため、勤怠指導で出席停止を受けている生徒を実際にハローワークへ連れて行き、グループワーク形式で面談してもらったり、検索方法を体験させてもらった。感想では「真剣に仕事を探している大人を見て、働くことがどんなに難しいかがわかった。面談してくれた人が言っていた『当たり前のことか当たり前でできないでは、社会では通用しない』が頭から離れない。」と書いている生徒もいた。このように、今後も専門的機関等との連携も図りながら、生徒の目的意識が高まるように取り組みたい。

IV 成果と課題

1 成果

- (1) アンケートの実施によって生徒の個別の背景を理解した支援ができた。
- (2) 「エゴグラム」を通して生徒に自己を見つめさせるきっかけを作り、自己理解を深めることができた。
- (3) 生徒との定期的な面談や担任との情報交換を行うことで、お互いの信頼関係を深めることができた。

2 今後の課題

- (1) 勤怠指導を受ける生徒の背景が複雑にからみ合っており、要因別に指導を実施することができなかった。今後は詳しく調べ詳細な分類をし、きめ細やかな指導の実践を図りたい。
- (2) 今後は学校だけでなく地域や小中学校と連携し、勤怠指導の予防的な支援体制づくりを図る。
- (3) 保護者との連携をスムーズに図れるよう、入学式やPTA総会などを利用してエンカウンターなどの、信頼関係づくりを図る取り組みを実施していく必要がある。

〈主な参考文献〉

堀洋道 2007 心理測定尺度集Ⅳ－子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉－サイエンス社
月刊学校教育相談 2005「特集1 遅刻について子どもと一緒に考える」 第19巻第11号
西村宣幸 2004 心理教育実践集 人づくりのわーく